

関連項目：教育活動プラン④

## 交流するよさを味わう機会を意図的に設ける

### 目的

本校の児童は、元気で活発である反面、相手の想いを受け入れたり、自分の想いを相手にうまく伝えたりすることは十分ではない。そこで、人とかかわる機会を意図的に設けることにした。人とつながるよさや喜びを感じることでできる場を設定し、さらに自分から相手へ、相手から自分へと双方向に発信することを体験させることで、自己有用感の高まりにもつなげたいと考え、実施することにした。

### 内容

#### ● 相手を意識した異学年交流

1-6年、2-4年、3-5年をペア学年とし、ペア活動を学期に1回以上行った。プール開き前にペアを決定し、1学期ペア水泳、2学期ペア読書、3学期ペアなわとびを行って交流を深めた。給食の縦割り班での活動も異学年を意識したものになっている。また、6年生が1年生のお世話活動として、給食や清掃活動の手伝いをしている。また、学級活動で6年生が1年生のために夏祭りを企画し、招待した。夏祭りでは、6年生が出店した的あてやお化け屋敷などのお店を回るチケットをもった1年生を、やさしく誘導していた。また、お店の感想を尋ねたり、サービスしたりとお互いに楽しんでいる様子が見られた。

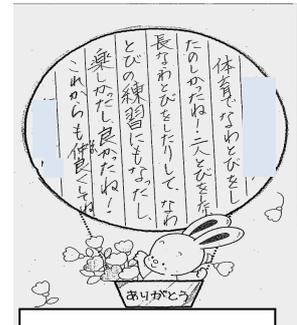


夏祭りの様子

#### ● ありがとうカードの活用

給食の縦割り班での活動が異学年を意識したものになるよう行事を行う。2学期には弁当の日に合わせて縦割り班で「青空給食」を実施した。3学期には縦割り班での長縄跳び交流を行った。

活動後の感想には、下学年は上学年への尊敬や憧れ・自分も上学年になったら・・・などの気持ちが、上学年は喜んでくれたりお礼を言ってくれて自分もうれしくなったことや上学年としてちゃんとしたと思った気持ちが書かれていた。交流を通してお互いが自分を見つめ直すよい機会となった。



ありがとうカード

#### ● 児童・保護者への啓発

校内の廊下掲示を人権コーナーとして活用し、ペア学年での交流活動や参加体験型の人権学習についての各学年の取り組みを掲示している。写真や児童の感想を、足を止めて見入る児童の姿が見られた。また、保護者にも学校での取り組みや人権に関心をもってもらえるように、人権に関する各学年の取り組みとミニ知識を紹介する人権便りを毎月発行している。

人権コーナーについて知っている児童は77.5%で、そのうちよく見たり読んだりしている児童は全体の40%であった。人権コーナーの設置や人権便りの発行は、学校が人権を大切にしたいなかまづくりを行っていることを児童や保護者に伝えることに効果があったと思われる。



人権コーナーと学校だより

### 成果

こうした取組をすることで、ペア活動や縦割り活動などの異学年交流を通して、相手のことを意識して行動した児童は全体の84.2%だった。行動を観察した結果でも、同学年と活動するときよりも、上学年には優しく上学年らしい態度が見られた。また下学年は、上学年に教えてもらったりするのがうれしく、素直に話を聞き一緒に活動する姿が見られた。活動後の感想からも交流を通してお互いが自分を見つめ直すことが出来ていたのがよかった。

